

いちじゅくの木

小川未明

青空文庫

年とし郎ろうくんと、吉よし雄おくんは、ある日ひ、学がっ校こうの帰かえりにお友ともだちのところへ遊あそびにゆきました。そのお家うちには、一本ほんの大きおおないちじゆくの木きがあつて、その木きの枝えだを差さして造つくつた苗なえぎ木ぎが、幾いく本ほんもありました。

「この木きを持もつてゆかない？ 二、三年ねんもたつと実みがたくさんなるよ。」と、友ともだちはいきました。

「ほんとう？ そんなに早はやく、実みがなるの。」と、二人ふたりは、おどろきました。

「ほんとうさ、このいちじゆくは、とても大きおおくて、うまいんだよ。」と、友ともだちは、自じ慢まんしたのであります。

「そうかい、もらつていつて、植うえるから。」と、二人ふたりは同じおなくらしい苗なえぎ木ぎを一本ほんずつ、ぶらさげて、お家うちへ帰かえつたのでした。

年とし郎ろうくんは、その小ちいさい木きをどこに植うえようかと考かんがえました。

「圃はたけにうえようかな、土つちがいいから、きつと早はやく大きおおくなるだろう。」といつて、圃はたけに植うえたのでした。

吉よし雄おくんも、その木きをどこに植うえたらいいかなと考かんがえました。

「庭のすみに植えてやろう。そう早く大きくなりはしないだろうから、邪魔になりはしない。」といつて、庭のすみに植えました。

圃に植えた年郎くんのいちじゆくは、日当たりがよくまた風もよく通ったから、ぐんと伸びてゆきました。翌年には、もう枝ができて、大きな葉が、地の上に黒い蔭をつくりました。すると、小鳥がきて止まりました。また頭の上を高く、白い雲が悠悠と見下ろしながら、過ぎてゆきました。

丹精して、野菜を作つていられたお祖父さんは、

「おどろいたなあ。」と、おつしやつたけれど、木は、そんなことに関係なく、ぐんぐんと大きくなりました。そして、三年目からは、ほんとうに、実がたくさんになりました。

吉雄くんの植えたいちじゆくは、庭のすみで、ほかの木の下の下になつて、日がよく当たらなかつたので、いつまでたつても実がなりませんでした。

「私を、こんなところに植えたんだもの。」と、木は、不平をいいつづけていました。

ある夏のこと、ちようど休暇が終わりかけるころから、年郎くんの家のいちじゆくは、たくさん実を結んで、それは紫色に熟して、見るからにおいしそうだったので、ちようど遊びにきた吉雄くんは、これを見て、びっくりしました。

「これは、いつか、もらつてきた木かい？」

「ああ、そうだ。」と、年とし郎ろうくんは、誇ほこらしげに答こたえました。

「こんなに、大おおきくなつたのかなあ、そしてこんなにたくさん実みを結むすんだのかなあ。」

「君きみの家のうちのは？」

「僕ぼくのうちのうちのは、まだ一つも実みがならないよ。」と、吉雄よしおくんは、いいました。

「きつと、場所ばしよがいけないのだよ。」

「場所ばしよが？」

「これは、土つちがよくて、日ひがよく当あたるから、早はやく大おおきくなつたのだと、お祖じい父いさんがい

つていらしたよ。」と、年とし郎ろうくんは、いいました。これをきいて、吉雄よしおくんは、はじめ

て、自分じぶんの植うえ場所ばしよの悪わるかつたのを悟さとつたのでした。

「果くだもの物は、日ひのよく当あたるところでなければ、よく育そだたないとお父ととさんもおっしやつた

よ。」

「じゃ、僕ぼくも、こんど日ひ当あたりのいいところへ植うえかえてやろう。」といつて、吉雄よしおくん

は、自分じぶんのうちのいちじゆくが、くらべものにならぬほど、成せい長ちようのおそいのをかわい

そうに感かんじたのでした。

吉雄くんは、お家へ帰つて、さつそく、庭の片すみにあつたいちじゆくの木を、圃へ移してやりました。

「僕がわるかつたのだ。さあ、早く大きくなつて、兄弟に、負けてはならない。」と、いちじゆくの木に向かつて、いいました。

吉雄くんは、それから、よく木に注意して、肥料をやつたりしました。

すると、吉雄くんのいちじゆくの木も、ぐんぐん大きくなつてゆきました。そして、早くも、明くる年には、みごとな実が幾つもついたのであります。

これを見て、吉雄くんは、思いました。

みんな同じような頭を持つて、生まれてきながら、よくできる人になり、また、そうでない人となるのは、やはり、この二本のいちじゆくの木のように、どこかに故障があつたにちがひなからう？ 自分の力でできることは、よく反省して、注意を怠つてはならない——。

ほんとうに、あどとき、吉雄くんが、自分の木はだめだといつて、そのままにしておいたり、もしくは、捨ててしまつたら、どうでしたでしょう。かわいそうに、その木は、ついに、一つの実すら結ばずにしまつたにちがひありません。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「いちじゅくの木《き》」となっております。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年7月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

いちじゅくの木

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>